

■第6回神戸市地域公共交通活性化協議会 主な意見（案）

【開催日時】平成31年3月27日（水）13:00~14:45

【開催場所】三宮研修センター 5階505会議室

【出席者】委員32名（欠席5名）

【議事（主な意見交換の内容）】

議事（1）北神地域のバス路線再編について

○神姫バス 竹内委員

- ・4月1日より社会実験として、吉川三宮線を1往復増便している。今年4月から9月までの乗車人員を調査し、前年の実績を上回ることができたら、継続運行したいと考えている。

議事（2）神戸市地域公共交通網形成計画の推進について

○神戸大学 正司委員

- ・バスロケーションデータの標準化・オープン化は世界的には標準であり、静的データだけでなく動的データも標準化・オープン化が進む事を期待している。
- ・三宮における中・長距離バスターミナルについて、スペース的に非常に厳しいことから、バース数やアイランドの狭さが問題になっている。将来的に有用なバスターミナルとなるよう検討を進めている。

○西日本旅客鉄道(株) 早川委員

- ・神戸線の新快速に500円で利用可能な指定席「Aシート」を導入した。ひとまず1編制での試行だが、利用動向を見定めて更なる検討を進める。
- ・大阪と姫路を結ぶ通勤型特急「らくラクはりま」を導入した。今後は利用者に指定座席で座っていただけることが新たな価値になると考えている。

○神戸電鉄(株) 松本委員

- ・昨年は7月豪雨や台風20号、21号で大きな被害を受けた。殆どの箇所で大規模復旧しているが、大池～花山間については次年度に周辺地区も含めて防災対策を施す予定。
- ・国・関係自治体からの協力を得ながら防災対策・安全対策の一層の充実を図っていく。

○扇タクシー(株) 成川委員

- ・タクシー業界として、消費税増税及び経営状況の悪化に伴い、運賃改定の申請を行っている。東京で実施されている初乗り距離を短縮して初乗金額を下げることを昨年協会で検討し、消費者（利用者）に受け入れられるような形で各社様々な運賃で申請が出ており、400円台から600円台強となっている。今後、近畿運輸局の審査で決定される。
- ・地域コミュニティ交通については、なかなか進捗がない。潮見台地区についても以前導入の話があったが、住民の活動が下火になり、頓挫した状態になっているのではないかと。
- ・北区の活動は把握していないが、タクシーを活用した神戸市地域問題検討会も5月以降開催されていない。

→○事務局

- ・潮見台については地域の方からまた具体的に動き出したいと要望があれば相談させて頂く。
- ・北五葉地区については、神鉄タクシーの協力を得て、去年4月から「おでかけ号」の試験運行を行っている。今年4月から試験運行のエリアを一部拡大して3回目の社会実験を実施する予定。

○神戸タクシー(株)

- ・キャッシュレス化対応としてICカード、電子マネーQRコード決済等に対応可能な決済を導入予定。
- ・神戸市消防局と協力して東灘エリア限定ではあるが、緊急性の低い方からの救急車要請時に、救急車の代わりにタクシーを活用する取組みを行う。
- ・PL混雑緩和の取組みで、新神戸～PI間のバスの利用状況はどうか。PL利用者ではなくタクシー利用者が移行していないかを危惧している。

→○神姫バス 竹内委員

- ・利用者は僅少である。

○西日本旅客鉄道(株) 早川委員

- ・公共交通分担率について、今年度かなり改善したようだが、どのような調査をしたか、何が原因で改善したのか。
- ・平成29年度と平成30年度に実施した調査は同様の手法か。この間になんらか公共交通分担率が改善した理由があるか。

→○事務局

- ・パーソントリップ調査と同様のOD調査をWEB上で1000人を対象に行って集計したデータを用い、人口を割り戻して平成22年度の調査結果を補正して算出している。
- ・サンプル数や地域のばらつき等もあるため高精度とは言えないが、可能な範囲で分担率を算出している。平成32年度にパーソントリップ調査が実施されるので、その調査結果も参考にしたい。
- ・平成29年度と平成30年度の調査手法は同様である。実績から鉄道利用が伸びているのは間違いはないが、その詳細な理由までは分析しきれてはいない。

→○神戸大学 小谷会長

- ・分担率を調査するのは難しく、同様の手法で長期的に見ていくことが必要である。この1年間で2%近く上昇している理由を推定するのはなかなか難しい。
- ・都心・観光地での交通手段の利用割合についても同様に推移を見る必要がある。

→○武庫川女子大学 水野委員

- ・交通については短期間で成果が出るものではなく、今はまだ策定から2年なので、この先動向を見極める必要があると考えている。中には下がったものもあるため、次年度以降、注意深く見ていく必要がある。

○武庫川女子大学 水野委員

- ・各交通事業者の取組みが進んできているが、ポータライナーの混雑緩和の取組みも、北神地域のバス路線再編も、地域コミュニティ交通の話もそうだが、人の行動を変える必要があるので非常に難しい。
- ・ハード面の取組みも重要だが、その先の人の気持ちや行動を変えるためのソフト面の取組みをどうす

るかが重要だと考えている。

- ・効果的な取り組みを蓄積していき、事例集のようなものが作ればいいのか。

→○神姫バス

- ・昨年12月からスマートフォン等を使って乗務員に対して提示するタイプの乗車券アプリ「PassRu」（パスルー）を導入した。
- ・支払いがクレジット決済となっており、今まで窓口で購入しなければならなかった一日乗車券等が、アプリ内で完結する仕組みになっている。
- ・英語にも対応しており、MaaSの一部を担わせながら、地域課題の解決につなげて行きたい。

○神戸大学 小谷会長

- ・新交通(株)の取り組みであるオフピーク乗車推進キャンペーンも利用者の意識に働きかけるモビリティマネジメントの1つ。
- ・神戸市としてなにか取り組んでいる事例、あるいは今後取り組む事例はあるか。

→○事務局

- ・今年度を実施したバスロケーションシステムの統一に向けた取り組みは、利用者に対して情報発信を行うことによって行動変容を狙う事例になると考えている。
- ・モビリティマネジメントという点では小学校に対する出前授業など、他都市事例の勉強をしながら、小学校の先生方に相談させていただいているところである。

議事（3）その他報告事項

○神戸市自治会連絡協議会 岩佐委員

- ・神戸市は東西の交通は便利だが、南北の交通が不便である。南北交通の改善は何度も要望を上げているが、なかなか改善されていない。
- ・一部改善されたところもあるようだが、人口減少が進む今、高齢者が住みやすい街だと言えるよう、この問題は解決していく必要があると考えている。

→○事務局

- ・鉄道もバスも東西を中心とした路線が多い中、塩屋や中央区東部などで地域主体による地域コミュニティ交通の導入によって課題を解決しようとしている地区もあり、それを応援し、ともに取り組みを進めている。
- ・南北交通の改善は難しい課題ではあるが、地域と一緒に取り組みを進めて行きたい。

全体を通じて

○近畿運輸局 原委員

- ・来年度策定予定の都市空間向上計画などのまちづくりと一体となって公共交通関連施策を引き続き進めていただきたい。
- ・北神地域のバス路線再編についても6回の部会で議論した結果出来上がったものであり、今後、具体的な施策の実施によって北神地域全体の利便性向上に繋がることを期待している。
- ・また、昨年末北神急行線の一体運行に関する協議に関する報道もあったが、そういった流れとも相まって、北神地域がより魅力的な地域になることを期待している。

○神戸大学 正司委員

- ・数値目標について、計画の進捗を数字で示すのは大切なことだが、数字を達成することが目標のような勘違いはしてはいけない。地域公共交通網をしっかりと構築していくことが目的のはずである。
- ・地域コミュニティ交通の支援地区数は増えているが、なかなか動いているところと、そうではないところがはっきりし始めているので、支援地区数を増やしていく一方で、その中身を実のあるものになっているのか検証することも重要。
- ・今年都市空間向上計画が形になり、それを支える形で地域公共交通網形成計画の改定を考えないといけない段階になってくるのではないか。
- ・毎年の事業報告はどうしても短期的な議論が中心になってしまうが、一方で10年後20年後の公共交通網をどう作っていくかという、ハードとソフトの二つのパラダイム転換を議論していかないといけない。

○武庫川女子大学 水野委員

- ・それぞれの事業者が努力するのは基本的なことだが、利用者から見ると交通は繋がっており、例えば今日の話にも出てきた情報のオープン化や混雑時のポートライナーをバスで補完する取組みなど、事業者間での協力も重要になる。
- ・まさしくこの協議会がそういった情報交換や連携の場であり、この場を通じて更に連携を強めていくことによって公共交通の利用率の増加に繋がっていくのではないか。

○神戸大学 小谷会長

- ・急激に少子高齢化が進んでいく中でまち作りを公共交通がどう支えていくかが、非常に大事な視点になってきている。
- ・便利で快適で、安全な交通ネットワークであると同時に、これまで以上にまち作りとの関連性が問われてくる。